

わが国心理学研究者の海外誌への投稿傾向
—*Psychological Abstracts (PA)* による分析—

Trend of the Papers by Japanese Psychological Researchers
Published in Overseas Journals—Analysis by Using *PA*—

長 田 秀 一
Hidekazu Nagata

Résumé

To collect information to the development of information system in psychology, an analysis of 393 papers by Japanese psychological researchers published in overseas journals was conducted. These 393 papers were sampled from *PA*, which were published on 126 journals in the related fields of psychology in 1979, 1980, 1981.

The analyses included researcher's affiliation published on the psychological journals, evaluation of these journals, and relation between the numbers of papers published in the Japanese Psychological Association's members in each subfield.

The result implies that 97 (2.4%) of Japanese psychological researchers were most productive and almost all of these researchers belong to famous universities in Japan. 34 of 40 psychological journals were published in U.S. and 4 were published in U.K. These journals were distributed from famous and important ones to not so important ones. Most 1300 (32.7%) members of Japanese Psychological Association belong to the subfield of perception, physiology, thinking and learning, and 243 (61.8%) papers were published in this subfield.

- I. はじめに
- II. 調査方法
 - A. 作業仮説
 - B. 方法
- III. 調査結果
 - A. 投稿雑誌の概要
 - B. 心理学雑誌への投稿と投稿者の所属機関

長田秀一：慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程
Hidekazu Nagata, Ph. D. Course, Graduate School of Library and Information Science, Keio University,
Mita, Minatoku, Tokyo

C. 投稿雑誌の評価

D. 投稿件数と投稿分野の研究者数との関係

IV. 考察

V. おわりに

I. はじめに

研究者は情報を入手したり、研究成果を公表する手段として、学術雑誌を利用する。研究者は、自らの研究成果を公表し、業績を認めてもらうために雑誌へ投稿するが、大抵の研究者は自分の専門分野かその周辺領域の権威のある重要な雑誌へ投稿することを望む。こうした権威のある雑誌はレフェリー制度を介した質の高い論文を掲載しており、その分野における国際的な雑誌である場合が多い。しかも、一般に発行部数も多く、雑誌の利用や引用も多い。また、研究業績を評価する際にも、こうした国際的に権威のある雑誌への投稿は、研究業績の一つの評価指標として重要視されている。

そこで、今回は、わが国の心理学研究者がどの程度、どのような海外誌へ投稿しているのかをみるために、心理学分野の主要な二次資料である *Psychological Abstracts (PA)* を基に、調査を行った。

II. 調査方法

A. 作業仮説

文献の利用に関して、心理学者は他の経済学、社会学、政治学といった社会科学分野の研究者と比較して、雑誌論文を利用する率が高く、自然科学分野の研究者の文献利用パターンに似た傾向を示している¹⁾。このように、心理学者は情報を入手したり、研究成果を公表する手段として学術雑誌に大きく頼っているのである。このことは、わが国の心理学者の場合にも当てはまる。

しかし、Burke らの引用分析調査によれば、わが国の研究者の場合、自国の文献よりも米国の文献をより多く利用していることが明らかになっている²⁾。これは、学術研究の中心が米国にあることや、わが国の研究者の大抵が英語を解せることにもよるが、こと研究成果の公表となると、圧倒的にわが国で発行される雑誌へ投稿することが多く、海外の欧文誌への投稿は非常に少ない。

海外誌へ投稿される論文は研究施設の整った、国内の一部の恵まれた研究機関に所属するすぐれた研究者によるものと思われる。しかも、投稿雑誌のほとんどは、わ

が国の研究者がよく利用する米国の雑誌によって占められるが、必ずしも国際的に知名度の高い権威のある雑誌ばかりに掲載されるとは限らないであろう。そこで、今回の調査に当って、次の3つの仮説をたて検討することにした。

①海外の欧文誌への投稿論文はある程度質の高さが要求されるので、海外誌への投稿は一部の有名大学および研究機関に所属する生産的な研究者によって占められるであろう。

②海外の心理学雑誌への投稿のほとんどは米国で発行される英語の雑誌に限られるが、その投稿雑誌はそれほど重要でない雑誌から国際的にも権威のある重要な雑誌へと広く分散する。

③心理学の専門分野の中でも、わが国の研究者の数が多くて、研究レベルが高いと思われる専門分野での投稿が多い。

B. 方法

心理学分野の代表的な二次資料として、アメリカ心理学会が編集している *PA* がある。これは世界各国で出版される心理学分野ばかりでなく、その関連領域の資料をも収録した抄録誌である、収録文献はほとんどが雑誌論文であるが、その他に、単行書、テクニカル・レポート視聴覚資料等も収録対象となっている。

今回の調査では、まず、この *PA* の63巻(1980年1～6月)から67巻(1982年1～3月)までの各号を、著者索引をもとに日本人研究者によって海外誌へ投稿された雑誌論文をカードに拾い出した。但し、外国人との共著論文の場合には、筆頭著者が日本人である場合に限った。さらに、拾い出した論文の発表年を1979, 1980, 1981年の3年間に限ることにした。これは、今回の調査が最近のわが国心理学者の海外誌への投稿傾向をみるためのものであるという理由による。因みに、1982年度に発表された日本人研究者による論文はタイムラグのため、1件もみつからなかった。

次に、日本心理学会会員名簿(1980)³⁾と新入会員および1980年版名簿訂正・変更(1981)を用い、心理学会会員のそれぞれの専門分野を調査した。今回抽出された雑

第1表 わが国心理学研究者による海外誌への投稿傾向

投稿雑名	1979	1980	1981	計	延び 著者数	平均 著者数	分野	発行国	言語
<i>Brain Research</i>	11	25	19	55	138	2.5	医学	US	E
<i>Physiology & Behavior</i>	11	12	7	30	66	2.2	医学	US	E
<i>Psychopharmacology</i>	10	6	7	23	47	2.0	医学	US	E
<i>Perceptual & Motor Skills</i>	8	13	2	23	40	1.7	心理学	US	E
<i>Vision Research</i>	1	6	8	15	28	1.9	物理学	US	E
<i>Psychotherapy & Psychosomatics</i>	11	0	0	11	21	1.9	医学	US	E
<i>Journal of General Psychology</i>	4	3	2	9	12	1.3	心理学	US	E
<i>Brain & Language</i>	1	4	3	8	24	3.0	心理学	US	E
<i>Perception & Psychophysics</i>	4	2	2	8	16	2.0	心理学	US	E
<i>Science</i>	6	1	1	8	20	2.5	一般	US	E
<i>Journal of Human Ergology</i>	4	3	0	7	16	2.3	医学	US	E
<i>Acta Psychologica</i>	1	3	1	5	10	2.0	心理学	US	E
<i>Human Factors</i>	0	5	0	5	9	1.8	社会学	US	E
<i>Psychological Reports</i>	4	1	0	5	10	2.0	心理学	US	E
<i>Acta Psychiatrica Scandinavica</i>	1	2	1	4	11	2.8	医学	Den- mark	E
<i>Animal Behavior</i>	2	0	2	4	9	2.3	動物学	US	E
<i>Archives of General Psychiatry</i>	2	2	0	4	14	3.5	医学	US	E
<i>Behavioral & Neural Biology</i>	2	1	1	4	10	2.5	医学	US	E
<i>Behavior Genetics</i>	2	2	0	4	8	2.0	心理学	US	E
<i>Behavior Research Methods & Instrumentation</i>	3	1	0	4	5	1.3	社会科学	US	E
<i>Journal of the Optical Society of America</i>	3	1	3	7	13	1.9	物理学	US	E
<i>Neuropsychologia</i>	0	0	4	4	8	2.0	心理学	US	E
<i>Psychometrika</i>	1	2	1	4	9	2.3	心理学	US	E
<i>Animal Learning & Behavior</i>	0	1	2	3	8	2.7	心理学	US	E
<i>Biological Psychology</i>	2	1	0	3	5	1.7	医学	US	E
<i>Bulletin of the Psychonomic Society</i>	0	3	0	3	9	3.0	心理学	US	E
<i>Hormones & Behavior</i>	0	1	2	3	7	2.3	医学	US	E
<i>IEEE Transactions on Systems, Man, & Cybernetics</i>	1	0	2	3	8	2.7	工学	US	E
<i>Journal of Speech & Hearing Research</i>	0	3	0	3	6	2.0	医学	US	E
<i>Journal of Social Psychology</i>	1	2	0	3	7	2.3	心理学	US	E
<i>Journal of Applied Psychology</i>	0	1	2	3	7	2.3	心理学	US	E
<i>Nature</i>	0	2	1	3	9	3.0	一般	US	E
<i>Audiology</i>	2	0	1	3	10	3.3	医学	US	E
<i>Primates</i>	3	0	0	3	5	1.7	動物学	US	E
.
.
.
総タイトル数 126	147	148	98	393	868	2.2			

注 1) 分野・発行国・言語は *Ulrich's International Periodicals Directory* 17th edition 1981 による。
 2) 3年間の合計が3件以上のみを示した。

誌論文の著者の中には、日本心理学会に所属していない者もいる。しかし、こうした研究者の多くも心理学の関連領域の研究者とみなせるので、今回の調査対象に含めることにした。

仮説①を検討するに当っては、対象となった論文の著者の所属機関を上述の日本心理学会会員名簿および研究者・研究課題総覧を用いて調査した。

仮説②については、米国の心理学研究者が評価した心理学雑誌の重要度リストを用いて、わが国の研究者が投稿した雑誌を評価した。

仮説③の検討に当っては、抽出された日本人著者による論文が、それぞれどの分野に属するかをみるために、PAの16のカテゴリー・リストを用いて分類し、先の心理学会会員の専門別研究者数との比較を行った。

III. 調査結果

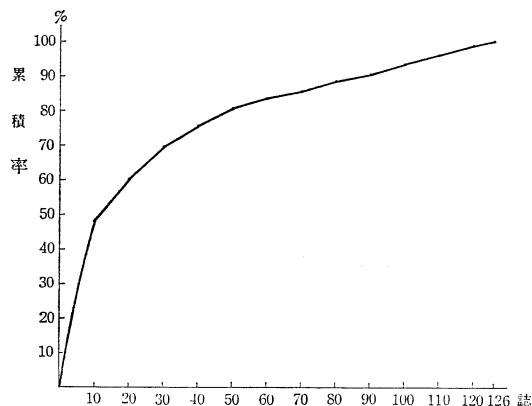
調査方法で示した手順に従って、最終的に抽出された論文数は147件(1979年)、148件(1980年)、98件(1981年)、計393件であった。1981年に発表された論文数が少ないのは、PAの67巻(1982年1～3月)の途中までしか調査できなかったためであり、タイムラグのためそれ以降の号にも多く収録されると考えられることによる。

A. 投稿雑誌の概要

対象となった393件の論文がどのような雑誌に投稿されたのかを第1表に示した。第1表には雑誌の分野、発行国、言語、さらには延べ著者数、1論文当りの平均著者数を示しておいた。

投稿雑誌数は126誌にのぼり、延べ著者数は868人、平均著者数は2.2人である。この126誌という数字は、今回の調査が心理学の関連領域を含めているとは言え、かなりの数の雑誌に分散していると言えよう。しかし、ほとんどの雑誌がせいぜい1～2度しか投稿されない雑誌で、第1図からも明らかのように、よく投稿される上位10誌で全体の48.3%を占め、上位20誌だと全体の60.8%を占めることになる。

ここで、注目すべきは投稿雑誌に医学雑誌の占める割合が高いことである。126誌中医学雑誌は48誌(38.1%)を占めており、特に上位に医学雑誌が目立つ。最も投稿件数の多かったのは脳分野の雑誌 *Brain Research* (55件)で、次いで生理学分野の雑誌 *Physiology & Behavior* が続いている。心理学分野の雑誌である *Perceptual & Motor Skills* はやっと第3位に登場してくる。これは知覚分野の雑誌であるが、医学や工学分野とも関連の



第1図 投稿雑誌の集中度

深い雑誌である。今回の調査では、脳医学や生理学分野の研究者と心理学研究者による共同研究もいくつか存在した。

その他には、化学、生物学、動物学、社会学、教育学、経済学、工学、物理学といった関連分野の雑誌にほぼ同程度に分布していることが明らかになった。

B. 心理学雑誌への投稿と投稿者の所属機関

先の第1表から心理学分野の雑誌のみをとりあげ、投稿雑誌と投稿した研究者の所属機関を調べた結果を第2表に示しておいた。

投稿のあった雑誌は40誌で、研究者の数は全体では226人だが、外国機関所属の日本人研究者、外国人の共著者および所属機関不明の計129人(その他)を除けば97人となる。この97人の所属機関は37機関に及ぶが、1～2名しか所属していない機関が大半である。所属機関は大学がほとんどで、大学以外の機関は6機関しか存在しない。国立大学所属の研究者(55人)が私立大学所属の研究者(25人)よりも数の上で多く、2倍以上になっている。

今回の調査で投稿者数の特に多かった機関は、大阪教育大学(10人)、関西学院大学(9人)、京都大学(7人)、東京都老人総合研究所(7人)である。また第2表には示していないが、その他に、外国機関に所属している日本人研究者が55人いた。

C. 投稿雑誌の評価

心理学雑誌40誌を対象に、わが国の心理学研究者がどの程度権威のある重要誌に投稿しているかをみている。この場合、評価基準となる雑誌の順位づけや重要誌の決

第2表 投稿者の所属機関内訳

投稿雑誌	著者の所属機関	大	東	東	早	千	東	福	鳥	N	愛	北	立	そ	計
		阪	京	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
<i>Perceptual & Motor Skills</i>	大阪大学	4	5	3	2	3	3	2	2	1	2	1	2	1	40
<i>Brain & Language</i>	京都大学	2	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
<i>Perception & Psychophysics</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
<i>Journal of General Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
<i>Acta Psychologica</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
<i>Psychological Reports</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
<i>Behavior Genetics</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
<i>Bulletin of the Psychonomic Society</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Psychometrika</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Animal Learning & Behavior</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Neuropsychologia</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Social Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Applied Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Cross-Cultural Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>International Journal of Sport Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Comparative & Physiological Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Human Stress</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Motor Behavior</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Canadian Counsellor</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Organizational Behavior Management</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Psychological Research</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Catalog of Selected Documents in Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Educational & Psychological Measurement</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Mathematical Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Experimental Psychology: Human Perception & Performance</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Journal of Personality & Social Psychology</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
<i>Suicide & Life-Threatening Behavior</i>	京都大学	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8

わが国心理学研究者の海外誌への投稿傾向

<i>Behavioral Science</i>	1	1	226
<i>Applied Psychological Measurement</i>	3	3	129
<i>British Journal of Projective Psychology & Personality Study</i>	1		2
<i>Developmental Psychology</i>	1		2
<i>Journal of Educational Psychology</i>	1		2
<i>Journal of Experimental Psychology: Human Learning, Memory</i>	1		2
<i>Journal of the Experimental Analysis of Behavior</i>	1		2
<i>Journal of Clinical Psychology</i>	1	1	2
<i>Perception</i>		1	2
<i>Research Communication in Psychology, Psychiatry & Behavior</i>		1	2
<i>Scandinavian Journal of Psychology</i>		1	3
<i>Studia Psychologiczne</i>		1	3
<i>Zeitschrift für psychologie</i>		1	3
			3
			3
			4
			4
			4
			4
			4
			4
			4
			7
			7
			7
			10
			9

注 1) 所属が1名の機関は省略した。

定に関しては次の2つの方法が考えられる。一つは、心理学者自身が重要誌を決定する方法である。Mace と Warner⁴⁾は、アメリカの大学で心理学の博士課程をもつ大学の心理学科主任にそれぞれ心理学雑誌64誌の順位づけを行わせている。それぞれの雑誌に対し、5 = 特に優れている、4 = 優れている、3 = 良い、2 = 普通、1 = 悪いという5段階の評価を行わせ、雑誌ごとに平均評価値を算出して、それを基に順位づけを行っている。その結果を第3表に示しておいた。

これと似た方法で、Koulack と Keselman⁵⁾は、アメリカ心理学会会員 863 名に自分が投稿したい、あるいは重要な記事を見い出せると思われる重要な10誌を挙げてもらうことによって、雑誌の順位づけを行っている。

もう一つの方法は、引用分析を用いて重要誌を決定する方法である。最近では SCI や SSCI を利用し、引用数や影響力を求めることによって、心理学分野の雑誌の重要度を決めているものもある⁶⁾⁷⁾⁸⁾。しかし、これら引用分析による順位づけの間でも、データのとり方によってそれぞれ結果が異なっている。

心理学研究者によって重要誌を決めてもらうという主観的な方法と実際の文献利用(引用)を基にした引用分析による方法では当然その結果にも差が出てくるし、一概にどの方法が妥当だとは言いきれない。Over⁹⁾はこの両方法の違いを議論している。

Mace と Warner らによる重要誌の決定には、心理学の各専門分野の研究者がそれぞれ研究成果を公表する際にどの様な雑誌に投稿することを望んでいるのかといった、雑誌の知名度の要素も含まれている。それに SCI を用いて心理学雑誌80誌の順位づけを行った Rushton らの順位リストを基に投稿雑誌を評価してもほとんど同じ結果になるので、今回の調査では Mace らの順位リスト(第3表)を基に、わが国心理学研究者による投稿雑誌の評価を試みた。

今回投稿のあった40誌中16誌がこのリストの中に入っている。この第3表は米国の心理学者の評価に基づくリストであり、従って他国の雑誌を過小評価している可能性がある。残りの24誌にはドイツ、スウェーデン、ポーランドで発行される雑誌も含まれており、これらが全て重要でないと言い切ることは

第3表 心理学雑誌の順位づけ

Journal	Rank	Rating	\bar{x}	N	x
<i>Journal of Comparative and Physiological Psychology</i>	1	E	3.84	45	1.11
<i>Journal of Personality and Social Psychology</i>	2	E	3.78	40	.89
<i>Psychological Review</i>	3	E	3.75	43	1.31
<i>Journal of Experimental Psychology</i>	4	E	3.70	47	1.23
<i>Annual Review of Psychology</i>	5	E	3.65	46	1.02
<i>Psychological Bulletin</i>	6.5	E	3.64	42	1.34
<i>Developmental Psychology</i>	6.5	E	3.64	39	.99
<i>Child Development</i>	8	E	3.61	42	.73
<i>Journal of Forensic Psychology</i>	9	E	3.52	44	.73
<i>Journal of Abnormal Psychology</i>	10	E	3.51	41	1.21
<i>Scientific American</i>	11	G	3.48	45	1.01
<i>American Psychologist</i>	12	G	3.40	47	.90
<i>Biometrics</i>	13	G	3.36	36	1.13
<i>Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior</i>	14	G	3.30	42	1.12
<i>Journal of Experimental Child Psychology</i>	15	G	3.21	39	1.10
<i>American Journal of Psychology</i>	16	G	3.20	44	.88
<i>British Journal of Psychology</i>	17.5	G	3.17	41	1.05
<i>Journal of Organizational Behavior and Human Performance</i>	17.5	G	3.17	34	1.17
<i>Science</i>	19.5	G	3.16	43	1.30
<i>Child Development Monographs</i>	19.5	G	3.16	37	.90
<i>Psychometrika</i>	21	G	3.12	40	1.57
<i>Animal Behavior</i>	22.5	G	3.10	39	.75
<i>Journal of Experimental Social Psychology</i>	22.5	G	3.10	40	1.15
<i>Journal of Experimental Research in Personality</i>	24	G	3.08	37	.95
<i>Journal of Physiology</i>	25	G	3.06	36	1.24
<i>Psychological Monographs</i>	26	G	3.03	31	1.05
<i>Journal of Mathematical Psychology</i>	27.5	G	3.00	35	1.43
<i>Human Factors</i>	27.5	G	3.00	39	.97
<i>Journal of Applied Psychology</i>	29	G	2.93	42	1.02
<i>Journal of Experimental Analysis of Behavior</i>	30	G	2.91	43	1.15
<i>Canadian Journal of Psychology</i>	31	G	2.90	41	.92
<i>Journal of Personality</i>	32.5	G	2.89	36	1.14
<i>Journal of Psychology</i>	32.5	G	2.89	46	.88
<i>Monographs of the Society for Research in Child Development</i>	34.5	G	2.80	30	.92
<i>Public Opinion Quarterly</i>	34.5	G	2.80	35	.93
<i>Journal of Neurophysiology</i>	36	G	2.71	34	1.36
<i>American Journal of Psychiatry</i>	37	G	2.69	39	1.10
<i>Ergonomics</i>	38	G	2.68	34	.91
<i>Psychophysiology</i>	39	G	2.66	35	1.06
<i>Behavioral Science</i>	40	G	2.65	34	1.10
<i>Experimental Neurology</i>	41	G	2.56	34	1.26
<i>Behavioral Research and Therapy</i>	42.5	G	2.54	35	.82
<i>Child Study</i>	42.5	G	2.54	33	.83

わが国心理学研究者の海外誌への投稿傾向

Journal	Rank	Rating	\bar{x}	N	x
<i>Journal of Consulting and Clinical Psychology</i>	44	G	2.51	37	1.12
<i>Psychology Today</i>	45	A	2.47	46	1.38
<i>Human Relations</i>	46.5	A	2.44	34	.93
<i>Journal of Clinical Psychology</i>	46.5	A	2.44	39	.94
<i>Journal of Academic Child Psychiatry</i>	48	A	2.39	31	.95
<i>Perceptual and Motor Skills</i>	49	A	2.36	44	1.08
<i>Personnel Psychology</i>	50	A	2.30	33	1.13
<i>Psychonomic Science</i>	51.5	A	2.23	47	1.27
<i>Journal of Genetic Psychology</i>	51.5	A	2.23	39	1.24
<i>Journal of Humanistic Psychology</i>	53	A	2.17	34	1.06
<i>Journal of Engineering Psychology</i>	54	A	2.13	31	.88
<i>Journal of Human Relations</i>	55	A	2.07	28	.90
<i>Journal of Social Psychology</i>	56	A	2.04	41	.83
<i>Journal of Marriage and the Family</i>	57	A	2.03	32	1.03
<i>Educational and Psychological Measurement</i>	58	A	2.01	40	1.10
<i>Journal of General Psychology</i>	59	A	2.00	41	.92
<i>Journal of Educational Psychology</i>	60	A	1.93	44	1.08
<i>Journal of Educational Measurement</i>	61	A	1.76	39	1.04
<i>Psychological Reports</i>	62	A	1.72	46	.88
<i>Journal of Educational Research</i>	63	A	1.71	41	.96
<i>Psychological Record</i>	64	A	1.59	44	.84

出典：Mace, K. c. and Warner, H. D. "Ratings of Psychology Journals," *American Psychologist*, 1973, p. 185

注 \bar{x} が4.5以上は特に優れている

〃 3.5~4.49は優れている (E)

〃 2.5~3.49は良い (G)

〃 1.5~2.49は普通 (A)

〃 0.5~1.49は悪い

できない。

心理学雑誌で一番投稿件数の多かった *Perceptual & Motor Skills* は、第3表では普通(A)に順位づけされている。

D. 投稿件数と投稿分野の研究者数との関係

今回調査対象となった393件の論文をPAの16のカテゴリーに分類すると第4表に示すようになる。心理学会会員名簿では専門分野を大きく5つに分類してあるので、PAの16のカテゴリーもこれに合わせてさらに5つの分野にまとめておいた。一方、日本心理学会会員の1980年現在の会員数は4,089人で、この内、日本人以外の会員と専門分野不明の会員計113名を除いた3,976人の専門分野別内訳を第4表に対照させておいた。

専門分野の会員数の割合に比べて投稿件数が多いの

は、I分野(知覚・生理・思考・学習)とV分野(手法・原理・歴史・一般)である。I分野の投稿件数が多いのは、今回の調査で投稿件数の多かった上位2誌、*Brain Research* と *Physiology & Behavior* がそれぞれ研究者数の多い脳、生理学分野の雑誌であったことによる。V分野で投稿件数が会員数の割合に比べて多いのは、わが国のこの分野の研究水準が高く、数理心理学の雑誌である *Psychometrika* への投稿が多かったことによる。

一方、II分野(発達・教育)、III分野(臨床・人格・犯罪・矯正)、IV分野(社会・産業・文化)の投稿件数は少なく、専門の会員数の割合に比べても投稿件数は少ない。特にII分野の投稿件数の少ないことが指摘できよう。

第4表 投稿件数と心理学会会員の専門別内訳

分野	PA の カテゴリー	投稿件数及び割合		専門分野の会員数
		投稿件数	割合	
I	Experimental Psychology (human)	73	243 (61.8)	1300 (32.7)
	Experimental Psychology (animal)	15		
	Physiological psychology	75		
	Physiological Intervention	80		
II	Developmental Psychology	17	22 (5.6)	1021 (25.7)
	Educational Psychology	5		
III	Personality	2	65 (16.6)	1071 (26.9)
	Physical and Physiological Disorders	32		
	Treatment and Prevention	31		
IV	Communication Systems	2	30 (7.6)	518 (13.0)
	Social Processes and Social Issues	10		
	Applied Psychology	16		
	Experimental Social Psychology	2		
V	Psychometrica	14	33 (8.4)	66 (1.7)
	Professional Personnel and Professional Issues	2		
	General Psychology	17		
	合 計		393 (100%)	3976 (100%)

注 I～Vの分野は心理学会会員名簿による。複数の専門分野をもつ研究者は第1専門分野で分類した。

- I 知覚・生理・思考・学習
- II 発達・教育
- III 臨床・人格・犯罪・矯正
- IV 社会・産業・文化
- V 方法・原理・歴史・一般

IV. 考 察

今回の調査で、わが国の心理学研究者は126誌にのぼる様々な雑誌に投稿していた。これは心理学が幅広い関連領域をもつ学際的な性格の学問であることによる。また、心理学と関連の深い医学雑誌への投稿が多かったのは、PAの収録対象誌に医学などの自然科学分野の雑誌がかなり多いことによる。

一方、投稿の多かった米国の雑誌を例にとれば、生物医学雑誌は心理学雑誌よりも圧倒的に数が多く、1雑誌当りの研究者数も生物医学雑誌が245人であるのに対し、心理学雑誌の場合596人と2倍以上になっている。さらに、生物医学一雑誌当りの刊行頻度は年平均7.7回

で掲載論文は97件（心理学雑誌は4.6回で掲載論文は59件）である¹⁰⁾。つまり、心理学研究者は生物医学研究者に比べて、学術雑誌へ研究成果を公表する機会が少ないのである。こうした分野の特性の違いも海外誌への投稿に影響を及ぼしているものと考えられる。

次に、先に設定した仮説の検討を行うことにする。

仮説①を検討するために、心理学雑誌40誌へ投稿した研究者97人に限って、所属機関を調べた。その結果、全体としては国立大学所属の研究者が圧倒的に多く、私立大学所属の研究者の2倍以上になっている。また、所属機関の大半が1～2名程度であるのに対して、7～10名の研究者が投稿している機関が一部存在することが判明した。

この一部の機関は、わが国の心理学の発展に大きく貢献してきた東京大学、京都大学、東北大学といった国立大学や早稲田、慶応といった一部の私立大学に所属する研究者で占められるものと仮定していた。しかし、今回の調査から、これら伝統的な大学グループに大阪教育大学や関西学院大学が加わっていることが明らかになった。しかも、東京大学などの伝統的な有名大学の研究者による投稿件数が予想していたよりも少なく、今回の調査からは仮説①が十分成立するとは言えない。

仮説②に関して、米国で発行される心理学雑誌は現在230種ほど存在する。今回投稿のあった心理学雑誌40誌中、米国で発行される雑誌は34誌で、米国以外の雑誌は6誌しかなかった。しかし、この6誌の中に英国の雑誌が2誌、カナダの雑誌が1誌、*Scandinavian Journal of Psychology* は英語であるため、英語以外の雑誌は *Studia Psychologica* (ポーランド語) と *Zeitschrift für Psychologie* (ドイツ語) の2誌のみであった。これは、現在心理学研究の中心が米国にあり、米国の雑誌の影響力が強いこと、さらには英語が国際語として用いられているためだと考えられる。

一方、今回投稿のあった米国の雑誌の16誌が第3表に示した重要雑誌 (E~A) に分散している。米国の雑誌へ投稿のあった残り18誌はこの表には現われないあまり重要でない雑誌に投稿されていることになる。以上のことから第②の仮説は成立するものとみなしてよい。

心理学会会員名簿に基づけば、心理学の専門分野として一番多いのが、I分野 (知覚・生理・思考・学習) の1,300人(32.7%)である。投稿件数もこの分野がやはり一番多くて243件(61.8%)であった。わが国の心理学のなかでは、数理的方法を含めて、この分野の研究水準は比較的高く、欧文による論文数も多く、国際的な評価をかためつつある。そして、印東太郎や戸田正直といった優れた研究者も数多い。また、生理学を専門とする優れた研究者が多いこともこの分野での投稿件数がきわだって多い理由の一つになっているものと思われる。こうしたことから、仮説③は成立することになる。

V. おわりに

今回の調査では、関連分野の研究者も含めたわが国の心理学研究者の海外の欧文誌への投稿傾向を調査した。

わが国の研究者の場合、海外誌へ投稿する際に言語上の制約を受けることが多く、わが国の研究成果が海外であまり評価されない原因にもなっている。こうした言語上の制約がどの程度、投稿行動やわが国の研究活動の評価に影響を及ぼしているのか、今回の調査では明らかにできなかったが、今後この点についても調査する必要がある。

最後に、今回の調査データの収集に当っては、聖心女子大学図書館の水谷均志氏にいろいろお世話になった。ここに感謝の意を表したい。

- 1) Line, M. B. "the Structure of social science literature as shown by a large-scale citation analysis." *Social Science Information Studies*. vol. 1, No. 5, p. 67-87 (1981).
- 2) Burke, C. E.; Price, D. de S. "The distribution of citations from nation to nation on a field basis; a computer calculation of the parameters." *Scientometrics*. vol. 3, p. 363-377 (1981).
- 3) 日本心理学会編 "日本心理学会会員名簿 1980年". 東京, 日本心理学会, 1980. 214 p.
- 4) Mace, K. C.; Warner, H. D. "Ratings of psychology journals." *American Psychologist*. vol. 28, No. 2, p. 184-186 (1973).
- 5) Koulack, D.; Keselman, H. J. "Ratings of psychology journals by members of the American Psychological Association." *American Psychologist*. vol. 30, p. 1049-1053 (1975).
- 6) Buss, A. R.; Medermott, J. R. "Ratings of psychology journals compared to objective measures of journal impact." *American Psychologist*. vol. 31, p. 675-678 (1976).
- 7) White, M. J.; White, K. G. "Citation analysis of psychology journals." *American Psychologist*. vol. 32, p. 301-305 (1977).
- 8) Rushton, J. P.; Roediger III, H. L. "an Evaluation of 80 psychology journals based on the *Science Citation Index*" vol. 32, p. 520-523 (1978).
- 9) Over, R. "Journal ranking by citation analysis; some inconsistencies." *American Psychologist*. vol. 32, p. 778-780 (1978).
- 10) King, D. W. et al. "Scientific Journals in the United States." *Strousberg, Hutchinson Ross*, 1981. 318 p.
- 11) 肥田野直ほか. "現代心理学の動向". 東京, 川島書店, 1980. p. 67.